

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）淡水魚類調査

# 屏風山湖沼群 サイト

—青森県つがる市—

屏風山湖沼群は、青森県津軽半島西部の屏風山地域に位置する日本有数の湖沼地帯です。海岸沿いに発達した砂丘列の凹地に大小約 180 の湖沼が点在しています。本地域の湖沼からは、これまでに約 20 種の魚類が記録されており、絶滅危惧種のキタノメダカ等も確認されています。

一部の湖沼は、低地に存在する貴重な高層湿原として津軽国定公園に指定され、環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い湿地（重要湿地）」にも選定されています。



採集した魚類を種類毎に選別している様子（2019年9月21日撮影）。



キタノメダカ（2019年6月29日撮影）。  
環境省レッドリストで絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅱ類）に指定されています。



調査地の景観（2019年6月30日撮影）。

## 2019年度の調査結果概要

屏風山湖沼群サイトは今年度から新たに設置したサイトです。1回目の調査は6月29日から30日に、2回目の調査は9月21日から22日に実施しました。定置網に入った魚類を回収し、種を同定した後、種ごとに総個体数を数え、総湿重量を測定しました。また、定置網で採集しにくい魚種を捕獲するための補助調査として、投網とタモ網を用いた採集も行いました。

1回目の調査では15種、2回目は17種、合計で17種の魚類が確認されました。今回の調査では、キタノメダカ（絶滅危惧Ⅱ類）、ヤリタナゴ・ジュズカケハゼ（準絶滅危惧）等の環境省レッドリスト掲載種が確認されました。その一方で、外来種のおオクチバスやブルーギル、タイリクバラタナゴ、国内外来種のゲンゴロウブナやモツゴ、シロヒレタビラ等も確認されました。個体数で見ると、1回目・2回目調査ともに、外来種タイリクバラタナゴと国内外来種のモツゴが多く採集されました。

【調査者・調査協力者】竹内 基(岩手県立久慈高等学校長内校)、柿野 亘・染谷 聖・塩練元輝・吉田 誠・島津隆盛(北里大学獣医学部)、井藤大樹(徳島県立博物館)、横井謙一・金子誠也(日本国際湿地保全連合)



オオクチバス（2019年9月21日撮影）。  
在来種への影響が大きく、特定外来生物に指定されています。



投網を打つ調査者（2019年9月21日撮影）。



ヤリタナゴ（2019年6月30日撮影）。  
青森県では津軽平野周辺の河川や湖沼にのみ生息しています。



モツゴ（2019年9月21日撮影）。  
個体数で多くを占めていました。国内外来種です。

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）淡水魚類調査

# 猪苗代湖 サイト

—福島県会津若松市・郡山市・耶麻郡—

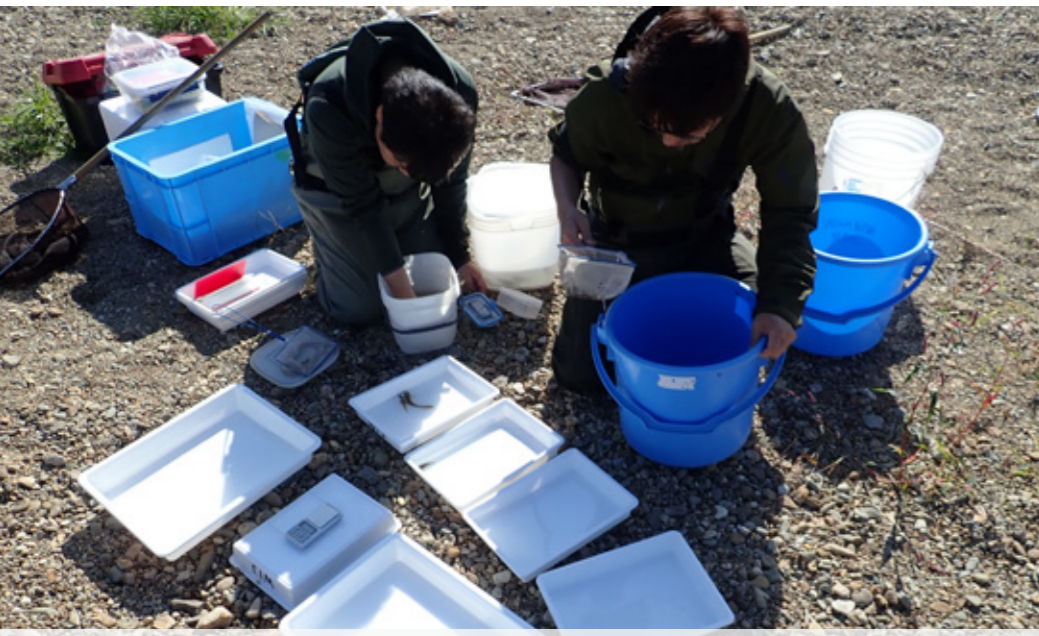
猪苗代湖は、福島県のほぼ中央に位置する国内で4番目の面積を誇る淡水湖です。猪苗代湖とその周辺水域からは、これまでに約36種の魚類が記録されており、スナヤツメやキタノアカヒレタビラ等の絶滅危惧種も確認されています。一方、オオクチバスやブルーギル、モツゴ等の国内外の外来種も確認されています。猪苗代湖は磐梯朝日国立公園に指定されているほか、環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い湿地（重要湿地）」にも選定されています。また、「猪苗代湖のミズスギゴケ群落」と「猪苗代湖のハクチョウおよびその渡来地」が国の天然記念物に指定されています。



ウグイ（2019年9月30日撮影）。  
猪苗代湖では「アカハラ」と呼ばれ、重要な漁獲対象種となっています。



カネヒラ（2019年9月30日撮影）。  
本来は西日本に分布する国内外来種です。



採集した魚類を種類ごとに分ける調査者（2019年9月30日撮影）。

### 2019年度の調査結果概要

猪苗代湖サイトは今年度から新たに設置したサイトです。1回目の調査は6月26から27日に、2回目の調査は9月30から10月1日に実施しました。定置網に入った魚類を回収し、種を同定した後、種ごとに総個体数を数え、総湿重量を測定しました。また、定置網で採集しにくい魚種を捕獲するための補助調査として、投網とタモ網を用いた採集も行いました。

1回目の調査では12種、2回目では15種、合計で15種の魚類が確認されました。今回の調査では、環境省レッドリスト掲載種のキタノアカヒレタビラ（絶滅危惧IB類）、ヤリタナゴ・ドジョウ（準絶滅危惧）が確認されました。その一方で、国内外来種のカネヒラ、オイカワ、モツゴ、タモロコ、ナマズも採集されました。個体数で見ると、1回目調査ではギンブナやワカサギが、2回目調査ではウキゴリやトウヨシノボリ類が多く採集されました。

**【調査者・調査協力者】** 平澤 桂・永山 駿・石井桃子（アクアマリンいなわしろカワセミ水族館）、寺本 航（福島県内水面水産試験場）・鬼多見 賢（猪苗代湖の自然を守る会）、井藤大樹（徳島県立博物館）、市塚友香・田畑早紀・鶴澤菜矢（環境省生物多様性センター）、横井謙一・金子誠也（日本国際湿地保全連合）



ナマズ（2019年10月1日撮影）。  
定置網で大型の個体が採集されました。国内外来種です。



ヤリタナゴ（2019年10月1日撮影）。  
環境省のレッドリストに準絶滅危惧種（NT）として掲載されています。



スナゴカマツカ（2019年10月1日撮影）。  
2019年に新種記載された日本固有の淡水魚です。



ウキゴリ（2019年6月27日撮影）。  
個体数で見ると多くを占めていました。